
空間の境

詞乃 かなた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空間の境

【Nコード】

N1368V

【作者名】

詞乃 かなた

【あらすじ】

数年前にノートに何となく書き留めていた文字の羅列です（苦笑）また、少し文を書いてみようと思い、お恥ずかしい限りですが一番最初にとりあえずアップしました。あらすじも何もなく、ただ当時（中学生位）の頭の中によく存在していた世界を何とか文字にさせていただけるだけです。

僕は、全く光の無い暗い場所でひざを抱えるように顔を伏せてうずくまっていた。

「ここがどこなのか、どのくらいの時間此処にいるのか、そんな事もどうでもよかった。

でも、僕はそこに居た。

「ねえ、何してるの？」

僕以外、誰も居ないはずの場所で僕以外の声が聞こえた。

誰だろう、でも不思議と懐かしい感じのする声。

ふと顔を上げると優しく微笑む少女が目の前に居た。

「この子誰だっけ……。何となく覚えのある透明感のある涼しげな姿と声。

「こんなところで、何してるの？」

少女は言った。

「わからない。」僕はまた顔を伏せて答えた。

「この場所・・・好き？」

また少女は優しく透明な声で柔らかく僕に問いかける。

「わからない。」またそれだけを答える。

「ねえ、一緒にいこう？」

最初から今まで、ずっと変わらない自然な笑顔でそう彼女は言いながら、僕の手を優しくひこうとする。

「いやだ。」
彼女を拒絶する僕。

「そつか、そうだよな。ごめんね」
そんな態度をとった僕を見る彼女の目はさっきまでと何も変わら
ない。蔑みも軽蔑も哀れみも何もない真っ直ぐで透明な瞳、ただ僕の
あるがままを受け入れる様に見つめている。
そして彼女は、にこっと笑いながら視線を前に戻し、僕の横にしゃ
がみ僕と同じように膝をかかえた。

「君はどうしてここにいるの？」
顔を伏せたまま、僕はつぶやくように聞いた。

「君がいるからだよ ダメ？」
顔をこちらに向けて透明な笑顔で当然の様に彼女は答える。

「別に・・・いいけど。」

「ありがとう。よかった、誰かと一緒に居られるっていいね。私
も寂しかったの。」
僕の横に座ったまま、すっと寄り添うように体を優しく僕に預けて、
変わらない笑顔で彼女はそう言った。

その瞬間、思わず僕の目から涙が溢れ出した。

「うん。」
何才の何時頃ぶりか覚えが無い位、理屈もなにも無いまま泣きじや
くり何度も首を縦に振った。

彼女は何も言わず、肩に頭を乗せながら優しく頭を撫でてくれた。

それから、どれくらいの間が経っただろう。

僕は立ち上がった。

「ねえ・・・一緒に 行こうか？」

彼女にそう言っていると、彼女もすぐに立ち上がり嬉しそうに「うん。」とだけ答え、またにこつと微笑んだ。

そして、僕は彼女の手をとり少し歩いた。

いつも間にか、目の前に大きな扉があった。

大きく、一度深呼吸をしてそのドアをに手を触れた。彼女も同じようにドアに触れていた。

その瞬間、大きくて重そうなドアはすーっと開き、眩い光が二人を包み込む。

「もう大丈夫、一人じゃないから。」

僕と彼女は、一度だけ視線を重ね、そして互いの手を強く握り、光の中へと真っ直ぐに歩き出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1368v/>

空間の境

2011年10月9日11時32分発行